

# 医学の豆知識 消化性潰瘍

理事長 消化器内科 永井 俊彦



消化性潰瘍（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）とは、ストレス、アルコール、薬剤などの刺激による胃、十二指腸の粘膜損傷（比較的浅い粘膜上皮の損傷は"びらん"と呼び、粘膜下層、固有筋層、漿膜に及ぶものを"潰瘍"と呼びます）。

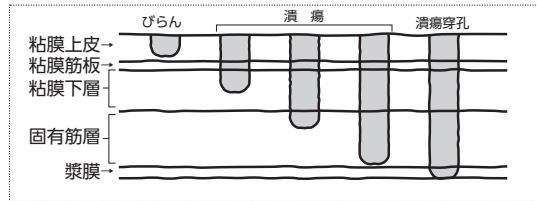


図-1

消化性潰瘍の名前の由来は1882年 Quincke が *ulcus pepticus*（消化性潰瘍）を提唱したものです。

## 1. 消化性潰瘍の原因

我が国に於ける消化性潰瘍の原因はピロリ菌（*Helicobacter pylori*）によるものが最も多く、次に多いのが消炎鎮痛薬（特に非ステロイド系消炎鎮痛薬：nonsteroidal anti-inflammatory drugs; NSAIDs）によるものです。

- 1) ピロリ菌は1983年 Warren&Marshallにより分離・培養された菌でウレアーゼという酵素を持っていて粘液中の尿素を分解しアンモニアを産生します。このアンモニアには粘膜を障害する作用があります。他にピロリ菌の関与する疾患には萎縮性胃炎、胃過形成性ポリープ、胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病などがあります。

ピロリ菌感染者は年齢とともに増加し70歳では60%位になりますが、衛生環境の改善と共に感染は減少しています。

- 2) 非ステロイド系消炎鎮痛薬（NSAIDs）は解熱、鎮痛、炎症を抑える目的に使用される薬物ですが、これらの薬物には胃の粘膜を保護する物質（プロスタグランジン）を抑制する作用があり、粘膜防御機能が低下します。

## 2. 好発部位

胃は胃体部（胃体上部、胃体中部、胃体下部）、胃角部、胃前庭部に分かれていますが、ピロリ菌によるものは胃体部、薬物によるものは胃前庭部に好発します。

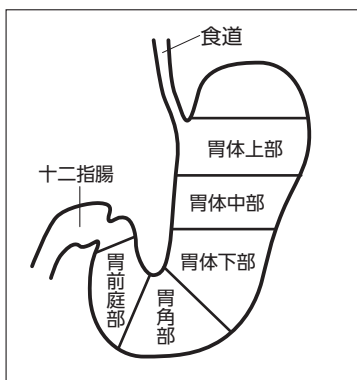


図-2

## 3. 高齢者と消化性潰瘍

高齢者はピロリ菌感染率が高く、腰痛、膝関節痛などに対する消炎鎮痛薬の内服。心疾患、脳血管障害に対する抗凝固薬、抗血小板薬を服用している人も多いのでリスクが高くなります。